

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 4 月 23 日

事業所名 児童デイサービスそら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	人数が多い時には二階も活用し十分なスペースを確保している	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	外出や取り組み等によって見守りが必要な時には特に人員を増やしている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	一軒家で段差がある場所もあるが必要に応じて職員がついて安全に移動できるよう活動を提供している。階段は急だが手すりを取り付け、すのこやフロアマットを使って配慮している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	常に情報共有を行い、提供した支援について振り返り次につなげることが出来ている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	職員間でアンケートの結果を共有し、改善に向けて話し合っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	以前は社労士の方に評価をしてもらっており、業務改善につなげている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	コロナ禍でオンライン研修が増えたが定期的に研修を受けるようにしている。BCPの研修や外部オンライン研修をその都度受講している	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	保護者のヒアリングに加え、児童の願いや困りをヒアリングし職員間でアセスメントすることで児童に添った支援計画を立案している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	固定のツールはないが、職員全員で情報共有、アセスメントを全員の目で行っているため視点の統一は行えている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	活動について毎日職員間で振り返り、次のプログラムへつなげている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	社会体験などその他様々な活動を取り入れ固定化しない様にしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	長期休暇は事前に担当を決めてその日毎に目標やテーマを決めて支援している。組んで設定している。日案を立て、予定を事前に組んで設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個々に応じた課題を作成し、計画の立案を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼を行い毎日確認が出来ている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	翌日の朝礼にて振り返りを行い、情報共有に努めている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	個別日誌や朝礼時に話し合ったことを記録し、支援につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	半年以内に見直しを行い、その都度話し合って判断を行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	個々によって基本活動が変わるので、個々に合ったものを組み合わせ行なうようにしている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	会議前に職員間で話し合った情報をもとに担当者や児発管が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	送迎する学校には保護者からも事業所からも連絡を入れて対応については必ず確認をとっている。 毎月の下校時刻のお便りや児童本人とも確認を取りながら送迎を組んでいる。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	緊急時の対応について緊急カードなどを作成し、保護者を通して対応を共有してもらっている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	同事業所からの異動や小学校中学年からの利用になるので、前事業所や学校や保護者からの引き継ぎ書やフェイスシート等を活用して情報共有に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	直接ではないが、相談支援員を通して情報の提供に努めている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		連携しての機会はあまりないが、研修は受けて研修報告を行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		コロナ等の感染症もあり今は来ていないが以前は交流の場に参加していた。 公共の場で関わる場面はあるが、一緒に活動とまではいかないので活動できるように参加していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		以前は参加していたが、コロナ禍で機会が減っているので今後参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	ヒアリングを丁寧に行うことで保護者と児童の現状を共有し、保護者と一緒に目標を考えられている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	トレーニングとまではいかないがこのような時にはこのような対応はどうか等の声かけを行っている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に曜日ごとの取り組みや支援の内容、受給者証を確認しながらの利用者負担について等の説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	聞き取り時や毎日の連絡帳、送迎の際などに応じるようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	そらカフェや餅つきなどの保護者会を開催し、保護者同士が連携を取れるようにしている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	契約時に苦情受付窓口の説明を行い、何か発信があった場合はすぐに報告し対処するよう努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	ホームページで日頃の様子などを発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報の書類は鍵のかかった棚に保管し、外部に情報が漏れないよう取り扱っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	それぞれのご家庭や個々に合わせて配慮し、連絡の取り方等も気を付けて対応するようになっている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		コロナ等の感染症に配慮して実施できていないが、時期を見てもっと地域と関わりを持っていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		マニュアルは策定しているが、周知は個人情報(私携帯)等開示できない情報もある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年に数回定期的に行っている。マニュアルの見直しをしたり振り返りを行い、さまざまな災害に備えている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	研修に参加するなどして機会を確保している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	契約時に同意書を記入してもらう際に説明を行い、危険な場面では児童にも伝えるようにしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	児童のアレルギーを一覧にまとめ、パート職員を含め、全員が把握できている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットを書面で残しているほか、朝礼で共有し、再発防止に努めている。	